

明日 への 話題

日本再生に向けた 五つのキーワード



大和総研
常務取締役

くまがい みつまる
熊谷 亮丸

わが国は「令和」の時代を迎えた。

この新しい時代に、日本はどういった方向を目指すべきなのだろうか？

筆者は、令和の時代にわが国が目指すべき「国家像」において、以下の五つがキーワードになると考えている。

第一のキーワードは「社会の安定性」だ。格差や健康などの問題が限定的で、人々が共存共栄の思想を背景に協力・協働する、安心・安全な社会を維持したい。

第二に「個人の自立」。個々人が自己責任に基づいて自立する、活力ある社会が理想である。

さらに、上記の二つを貫く「横串」として、三つのキーワードを挙げたい。第三に「多様性（ダイバーシティ）」、第四に「持続可能性（サステナビリティ）」、第五に「スピード」——これら三つは、まさしく世界的な潮流とも言える。

具体的に、わが国が優先的に取り組むべき政策課題は以下の通りだ。

第一に、「社会の安定性」という観点からは、社会の中核をなす分厚い中間層を支える必要がある。この意味で、2019年の骨太方針に明記された「就職氷河期世代の支援策」は的を射た政策だ。

第二に、「個人の自立」という面では、アベノミクスの「第三の矢」である成長戦略の加速が欠かせない。具体的には、規制改革の断行、輸出の振興、労働市場の流動性向上、中小企業のM&A促進などを通じた、労働生産性の改善が鍵になる。

第三に、「多様性（ダイバーシティ）」という観点からは、従来以上に、外国人労働力の活用や女性の活躍を推進して、イノベーション（技術革新）を促進する必要がある。「オールジャパン」という旧来型の発想から脱却し、世界中の優れた企業と是々非々で提携する「オープンイノベーション」を促進することも重要だ。

第四に、「持続可能性（サステナビリティ）」という面では、社会保障制度改革、SDGsの推進、日銀の金融政策など、様々な分野で政策課題がある。

第五に、「スピード」という観点からは、「無謬（むびゅう）性」へのこだわりを捨て、スピーディーに政策を実行する必要があるだろう。

「保守（Conservative）」の語源を調べてみると、「防腐剤」という意味合いもある。不断の改革を図ることこそが、大切な美点を守り抜くことを可能にする。今後、日本政府には、自由闊達な議論を通じて、わが国の未来について長期的、多面的、そして根本的に考察した上で、進むべき道筋を国民に提示してほしい。